

第 16 回青森県気象災害連絡会

日時：平成 26 年 1 月 21 日（火）13:30～15:30

場所：青森地方気象台 2F 防災連絡室（青森市花園 3）

13:30～13:35 開会挨拶

<特集: 2013 年台風 18 号による大雨災害>

13:30～14:15 「台風第 18 号による大雨(9 月 15～16 日)」

・・・西畑 秀則（青森地方気象台 技術専門官）

<調査報告>

14:20～14:50 「台風 18 号豪雨に伴う岩木川の出水状況と治水事業効果について」

・・・樋川 満（国土交通省 青森河川国道事務所 調査第一課）

14:50～15:20 「台風第 18 号による青森県管理河川の被害状況について」

・・・今井 博之（青森県 県土整備部 河川砂防課 企画・防災グループ）

15:20～15:30 総合討論

(敬称略)

要旨

<特集: 2013 年台風 18 号による大雨災害>

台風第 18 号による大雨（9 月 15～16 日）

青森地方気象台 技術専門官 西畑秀則

平成 25 年台風第 18 号による青森県の大雨について解析した。

15 日は前線南側の不安定域における降水であったが、16 日は台風や前線の北側における層状性の降水によって、広範囲に日降水量 100 ミリ以上の大雨となった。

16 日の降水のメカニズムを数値予報モデルを用いて詳しく調査したところ、前線北側の層状性の降水に加え、対流雲を起源とする降水が含まれていることがわかった。対流雲起源の降水は、前線の南側に流入する対流不安定な気層が前線面上昇することによって発生・発達した対流雲が、気温 0℃層より上空に大量の雪を生成し、その雪が強い南風によって青森県上空に輸送されたものが融解しながら落下したものと考えられる。

<調査研究報告>

台風 18 号豪雨に伴う岩木川の出水状況と治水事業効果について

国土交通省 青森河川国道事務所 調査第一課 樋川 満

平成 25 年 9 月 16 日～17 日にかけて台風 18 号による大雨は青森県内の各地に大規模な洪水被害をもたらし、岩木川では既往最高水位を記録するなど大規模な出水となった。岩木川流域の降雨の特徴は、五所川原上流域に総雨量 120mm 以上が満遍なく降り、深山沢雨量観測所では降雨ピーク前後 3 時間で総雨量の 50%以上を占める集中的な豪雨であった。また、水位の特徴として幡龍橋水位観測所では、16 日 16 時～17 時の 1 時間に 1.65m の水位上昇があり、水位上昇速度も既往最大であった。

今回の出水により上中畑地区と三世寺地区の 2 地区（いずれも弘前市）の無堤部より浸水し家屋等の浸水被害が生じた。一方、この浸水被害があった対岸側、右岸の板柳堤防（板柳町）は、堤防が平成 25 年 3 月に完成しており、この度の浸水被害は無かった。この板柳堤防は約 3,100ha、約 5,900 戸の浸水を防いだと推定される。

台風第 18 号による青森県管理河川の被害状況について

青森県 県土整備部 河川砂防課 主幹 今井 博之

平成 25 年 9 月の台風第 18 号の影響により、県内全体で大雨となり、津軽地方南部で総雨量が 200 ミリを超えた。この影響により、岩木川、馬淵川などで河川が氾濫し、県内の公共土木施設の被害箇所数は、過去 10 年で最も多くなった。

このうち、平川市の岩木川水系引座川において、堤防が決壊した影響で農地が冠水し、杉館水位観測所で観測史上最高の水位を記録した。また、馬淵川中流域の南部町、三戸町において、多くの家屋が浸水被害を受け、馬淵南部水位観測所で観測史上最高の水位を記録した。

堤防が決壊した引座川、大和沢川等の河川について、再度被害防止のため、大型土のうや盛土による応急対策工事を早急に実施した。

岩木川水系目屋ダムでは、今回の出水により、計画流入量 $500\text{m}^3/\text{s}$ を大きく超える $665\text{m}^3/\text{s}$ を記録したものの、洪水調節により、下流の上岩木橋地点で水位を約 1m 低減させる効果があったものと推測される。

今回被災した県管理河川について、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づき申請を行い、平成 25 年 12 月 6 日をもって災害査定を終了し、平成 26 年度を目途に復旧を完了する予定である。